

「お灸の魅力～治効メカニズムと臨床での活用法」

大阪大学大学院医学系研究科

富田治療院院長・良導絡専門師 永田宏子

前半は、灸の歴史、種類、効用や治効機序について、最近の知見を交えて紹介する。

灸の効用としては、鎮痛、循環改善、筋緊張の緩和、内臓機能改善、生体防御系の賦活などがある。これらの効用をもたらす治効（生体反応）機序としては、温熱作用、輻射熱による効果、もぐさの燃焼生成物による薬理作用が考えられている。

灸には様々な種類があり、海外では間接灸が主流である。透熱灸は、日本国内で伝統的に行われてきた直接灸で、侵害性熱刺激により、サイトカイン産生、NK細胞活性化など、免疫系に影響を与えることが報告されている。また、侵害性熱刺激が抹消のポリモーダル受容器から求心性に中枢に伝達され、広汎性侵害抑制調節（DNIC）や内因性疼痛系を活性化すると考えられている。

灸研究は鍼研究と比較すると少なく、多くの基礎研究は動物実験によるものである。火気の使用や燃焼により発生する煙や匂いは、環境により使用の妨げとなる。さらに、温度コントロールが難しく火傷を起こしやすいことも灸の欠点の一つである。

近年は、侵害性および非侵害性の熱刺激を再現可能な電気灸が市販されている。講演後半は、電気灸ともぐさ灸の温度特性の比較、電気灸と温灸を用いたヒト脳機能イメージングの研究成果などを紹介する。

実技供覧は、電気灸器の臨床での活用法を紹介し、実際に電気灸や温灸を体験していただく場としたい。